





13  
2208  
15

星月夜頭晦録三篇卷之五

目錄

○局松島自害つがひまつしま一トクて貞操まことを立たて義秀よしひで再び疑うたがひを蒙こうる  
局松島書つがひまつしま並侍女まじり綾あや扱あつかへ遺言おぼえごころの圖ず

其二

○和田一族わだのいちぞく九十條よそひ軍ついで因居よきよ武將ぶしょう英智えいち史し以もり  
胡比奈三郎あきひな義秀よしひで所ところへ伴ともひあるまるまるま

星月夜三編卷之五



○泉いづみ小次郎親平ちひひら隱謀いんぼう某時あるとき紙かみ殊こと成なりせんと欲ほむ  
館たね四よ郎らう政まさ久ひさ菰こも生なり右馬みぎうま允のり常つね一いつ國くに淨じやうの号なづ

邸てい臺たい所ところ  
書かき置おきの末すえふらる

和

おく家の事なきはらむ

年月廿

思ふ事なり

あはれ





松嶋書置  
 侍女賤機へ  
 遺言の圖

三浦 編 卷之五



三浦 編 卷之五



朝比奈三郎へ  
書置の末ふりめ

松島

あゝーその

うすねえさー

いふせん

君かきれえや

ほり

ちたりの成

星月夜頭晦録三篇卷之五

局松島自害して貞操を立義秀再び此疑を為す  
忠臣二君は仕ど烈女二夫は更ど一齊の王蠟が詞多う松島の局

いふと義秀に相別ごとくども一旦夫とあひ定てうら固貞の  
道と扱ひ尼公への市朝の服せざるは甚怒りせのひ偽は義秀と

密通せしめと疑念法くいふゆゑ一罪を犯さんと云ふ言はれども  
控由るひはバカかふと義時を召て相談あるふ義時おあゝ

是と疑ひ先達と和田朝重局と才が妻は場らんことと密は君へ  
い下地より密通あしむと存せこそ又朝時辨ひ出せしと義秀

情らく助けぬせも局とむる送返せんぬはあつる松島君を頼み  
仁義右佐と稱しぬる松島はあつる松島君を頼み我々の成ひを





侍るものも秀助の役も曲者次第に己が柄とあるて  
 早速折返し苦あつたよ身は不安のかれを知らぬ放  
 散せし全く公儀ある儀と表出仁者忠臣とんせうけ内公  
 安く居る公連せん為れ由計畧候なりつもの之局が不潔  
 皆この女をゆと理を非に枉くせしむる公儀ありとそ和  
 又子を悟せし局は終つて面高は是非胡時子嫁せしむと  
 宣ひらるる也。夫時よろこび先け事流言いこそ世風は就  
 中咎あふと邪智と勧め夫より後登が之男胡比奈三郎  
 情とんせう局を送り候せんぬ胡時を助けこそ是非あり  
 かの局と密通く在也計畧の情あるは風はこそ折れど  
 奥向女中の中。良流も候位なるあり。おへ松島屋の良男とて

私語ありありと。け流言中風波普くしうバ尼公の  
 再び松島と傍近くめ。あつてその方け不義密通と  
 潔白な中けるが。隠忍へ天道是と候。人とみ言むる理り  
 け以世との風波は何なる也。けこの実あるんあへ友人とも  
 重罪を遁るべう。然れども罪を犯す時ハ武將の改め是る候  
 候りともれば。再吟味も候が。あつて捨盡せたりあつた  
 是れハ突撃のい。方あり。去るは海舟候の速は胡時が  
 妻ともうバ風波も虚説ともり。その方不義の料も是非あり安  
 の栄花とるべ。け事次第退せ。風波は符合する疑あるて  
 是非あり。隠密の礼の儀遂に骨を碎れ身と押すも同好らめ  
 罪を加ふ。底のそと。男のひけ。局大なる悲し。







是非く。我身を胡時は添せん為のぞく風波させを辨の事ひ  
 志のふりのあらんと推量。必しつある憂目又遊とも。貞女の  
 道と背す。と受ん悟紙宛めやるるへ仰みくゆども。けつるもや上る  
 通り。一旦定めありし夫ある上へ今さら擧君活ひまへん底小  
 あらば一向なほとて只今仰のぞく風波しゆを去る夫婦の  
 仰と背は擧君へ随ひまへんせ。いよく下地よりの密通と風波  
 と交すべし。ワが身かきくゆり。いづれもやう此風波も止む。唯  
 ぬ方ともよろしに相。判髪は髪下まへ。思の程深うんと泣く  
 此言やるふ尼公いやく怒めひ我は風波の虚説を乳を外あじと。  
 気文と受て存紙立のいひじき帰伏せんと。再び之案を思ひ  
 のふけ時局へ赴るはぬり。未方行末とわりの推さより。此星月夜  
 の

作伽ら七尾時中例を離れ。い鎌倉より下向の後も。相替らむ  
 厚恩を慕ひし。今かく自後の中紙隔らむ。此例の宮仕ある  
 悲し。此先由更し約束の夫は連係も叶は割道方ぬ  
 匹夫は嫁せしめんとある尼公の仰とも。あふ人は遠くとも叶す。  
 又出家紙がふとも。意地強は尼公みれば。その由縁のみま。思乃  
 此主は仕あると叶い。相ふ夫は流とも。あはれ苦の中は存令ん  
 り。標を守り。味よく。自害せんめのと。あやまつけ。せめて我身の成ゆと。  
 此主と夫はま。せぬり。く。此年紙書讀と。その歩も哀るる。此星月  
 の中へ。い。年月思の。此終細くと。認め。今日自害ま。あはれ。此年。  
 あり。短気の。あふ。よ。い。尼公の仰は。随ひて。君の。此星月。空に。  
 此星月。年。以。教へ。あり。貞女の道は。遠ひ。悲し。是と。せ。ん。



されば尼公の由は差ひも疑ひの由吟味あんとその事平を遁世  
 の形ひいせしうども。由先あけはば所せん存命居る。彼方け方の  
 難事ともあらん。その悲しさに止ま紙はと命を捨ゆ。書残し。  
 又秀秀の許へも。け紙紙書あらし夫婦の契約ありあせ。由免を  
 取り返ぶるもあ。捕まふ等し。死すもあ。悲さやうかてあ。出家の  
 形ひも叶ひ。存命在り。現世の平をなごる。さよゆらひ。未だ  
 の契りこそ移ひ上ゆと認る。年比居件半下女嫉憤とて先よ  
 義秀の文の假せ。考紙折紙細くと迷言し。自分存命あり。は  
 由是下の由為る。夫義秀及の由中もあ。とて夫よこの  
 命は恩と情は損る。自ら死して後。方へ一旦由是下の由返ゆる  
 べき。その時の文をさ。よ。又義秀及への文へ大切也。かあ。人よ

志する。そのうれを妻に事ハ。その方の上で他人と。相を  
 し。けは。年月仕。女也。大に。終る。終る。の。由。指子。の。妻。く。存。居。る。例  
 ろ。が。由。の。内。を。考。る。中。に。上。知。今。中。居。結。ゆ。知。は。を。あ。い。し。と。も  
 又。社。の。案。由。ゆ。らん。先。由。自。害。止。り。あ。と。歎。き。悲。し。道。と。も。房。の  
 覚。悟。の上。る。れ。存。命。在。る。後。方。の。乃。あ。う。ご。る。と。紙。う。く。や。ゆ。へ  
 新。と。由。の。跡。の。と。必。と。云。は。あ。紙。遠。よ。る。と。迷。え。終。る。佛。名。扱。遍。称。へ  
 その夜十八歳を一期とて自害し果々の表と云もあ。後りあり  
 去るとふ。局が次。秀。聖。朝。は。不。幸。し。尼。公。大。に。終。り。あ。ひ。け。ま。ま。を  
 用ひ。と。割。自。害。せ。と。の。ゆ。義。秀。と。密。通。せ。疑。ひ。ま。お。く。情。の  
 強。き。女。か。ま。と。怒。あり。義。時。と。居。て。い。致。を。後。し。ゆ。は。義。時。悦。意  
 少。か。ら。は。是。を。和。田。が。福。と。と。云。す。行。と。い。ひ。分。け。は。局。松。島。の



義秀と密通せし儀伺せしれ自害せしと披あり義秀吟味のこと  
 仰せされば和田の一族ついに陳ぜりとも相争死する事な争ひ扼  
 と往つて罪はぬせんとすけは尼公いそ小同じのひ松島も干  
 不義密通の事候るく自害せし旨沙汰せし武右の由方へは  
 おもひた仰せられりもあそふも義殺せし自害せしと子細  
 わんと不申ぬと右中を不も初と告りふと松島が迷ふと  
 取つて一様候を判する者あて我は所へはさる候待内は何れ  
 事あて妨せりん由例がさしたとい外ありとも経紀又分中候  
 乞易しと不簡一聖朝中門の因依候はる所の由所へさる由は松島  
 殊は親かりし局は就く文をさし上達之の縁尼公の由所はあり内の  
 りども始終委しく上その候朝比奈が亭に就け文を届指子細は

物候と意だまゆりしれば疑念の大方入かたり立替り混雑  
 室中尼公候時ハ自害の事ハ打捨唯跡の邪謀の相殺はをを  
 屈從のひ。誰知る者もあらず。扱もはるあは。逐一あやう。尼公は  
 致せのひ。幼少よりは例は君仕は。市訓海も泳けは。今や。夜は。乃  
 市斗ひも。義秀妻とあるも。毎日伺公と。さ。音仰。海。さ。く。あ。ど  
 あり。は。尼公の。は。又。あ。て。その。事。須。つ。ど。ま。う。も。局。を。尼公の。由。方。へ。は。さ。り  
 由。へ。か。あ。る。ま。い。さ。う。と。い。へ。ど。も。早。く。ゆ。り。ま。い。んと。張。り。は。武。右。の  
 由。方。より。母。公。の。由。え。へ。懸。ひ。下。さ。り。扱。あ。と。は。君。も。さ。さ。と。は。推。量  
 あ。り。て。近。く。呼。取。さ。ず。と。仰。あり。一。知。は。は。度。の。決。り。あ。れ。ば。殊。る。又。は  
 愁。傷。あ。り。り。と。扱。又。朝。比。奈。を。示。す。義。秀。も。書。置。の。扱。因。ハ。候。様。が  
 巨。細。の。物。替。取。つ。て。松。島。が。を。感。じ。さ。り。勇。気。挽。ぬ。義。秀。あ。れ



どの熱傷も堪がて。涙をたると流し。天晴勇士の妻。これ  
 へき女あり。天壽をよむ。刺刀は切て死なむ。む不使の  
 意のいと大に悲泣し。兄ホも是を告あせり。老翁胡登友へもに  
 致さ入り。叔く孫まある。次才もね。女あり。稀ある。春勃情も條あり。  
 皆是尼公の嫉妬侮執より起る。あられ彼局が底十の  
 一。も尼公ふあり。あ。万民の幸いあり。四海静澄ある。べきふと見  
 才三人影え合せ。局が室は天下の安危をひつけ。後侯救は  
 ちびる。是も情も依て致く。のまふ。局が自害の即をせり。  
 知られ。鬼神とも感ぜしむ。これ三人の勇士を悲致せしむ。所  
 あり。あるは尼公より。むお。仰きされらる。松ある。口が。後よ  
 招て。熱傷の祥の。も。て。御も。勇る。ま。久。ま。中。際。あ。

どの。人とみて。お。むれ。もの。その。実。と。や。さ。だ。唯。明。昏。致。悲。む。あ  
 とい。が。く。わ。り。ふ。付。その。心。を。探。つ。ん。ん。初。時。奴。咄。び。返。嫁。せ  
 る。む。さ。う。や。咄。せ。に。固。く。辞。退。し。控。ま。真。の。侍。ある。あ。い。ろ。く。中  
 咄。で。癖。し。見。と。ば。義。秀。へ。義。理。立。て。と。す。よ。う。て。その。次。を。礼。回。さ。る。ふ  
 か。め。る。う。は。案。さ。る。ふ。下。地。より。義。秀。と。密。通。よ。及。び。表。向。う。や。め。ん  
 と。起。ひ。の。の。あ。ぶ。う。て。控。も。向。ひ。究。ま。せ。も。言。正。か。ら。は。言。を。あ。る。と  
 あ。や。云。張。り。と。自。害。せ。り。是。を。以。て。考。る。ふ。義。秀。初。時。を。捕。へ  
 る。が。放。及。せ。し。る。の。局。を。誘。せ。し。ゆ。ゆ。松。島。が。身。小。過。る。は。呀。へ  
 ぬ。さ。め。ん。が。看。あり。二。つ。の。我。約。束。の。局。を。朝。時。に。犯。さ。れ。て。は。起。ひ。の  
 妨。げ。る。と。ん。と。心。を。死。せ。し。情。け。く。助。さ。る。の。の。と。あ。つ。る。熱。傷  
 義。秀。が。密。通。と。り。不。義。密。通。を。あ。せ。罪。逃。ぶ。か。た。は。初。と。た。り

星月夜三編卷之五



誘ふといふも密會の罪より居承せざれば不承ともいひ  
 かご一義秀の内へ通じありあざり。若くは様めさるるふすのいん  
 しの企その罪免と不忍びと武若若年也へ傳り欺んとさるを  
 その傳子捨棄まじは後日いつるの非法とるる人罪科出ひあ  
 べとの仰ありしうが不承一旨委細承知仕は思ふよおよび上  
 いら振も仕人と申返事あつて後さすつて後者の効るところ  
 る人と申推察あるへ言せせらるる小及ぶと捨棄す。

和田一族九十餘輩因居武若英智の安所

時不尼公の頼も義秀乳問のうけ傳傳あり。老臣緒大臣の面々  
 その旨仰載され詮義延引よるべき事なれば尼公の仕あよむひと  
 乳問あぶさる一宣ふよつて。若くはも言つてはつと旨あれども母の

仰止る紙のゆるぐ。諸臣を集めて義承るさしめあふよ北条  
 相摸守時才一乳問紙初めなる。執権の言は門後ふともか  
 何指むの事と申せらるる。義秀を再び乳問せらるる。其の言は  
 異なる勇士あれは拷問するとも。白状とてそののあふは且唯  
 作疑ひのそめて控執とてさす所もあはれは廉忽の拷問のいん  
 然とて又義承は命せられ。内々して乳問と仰あふ。義盛の  
 子のうの友有る紙乳問だば。申せらるる。紙のいん。後一拷問  
 仕へさると効る者もあるよつて。別はよ同らあひ。申使をわつと  
 け育紙仰きこれ却比奈を乳問を。申使をせらるると言命下  
 在せし。義盛は侵とて。早速出違へ大令の誦取り。其が  
 忽ち憤怒面よあつて。拳を控て申使者に向ひ。いづれは仰を



其のいふ所の如く、秀房は不義密通の科あり、其の如く、  
 その不義のお母の何れも、やと問々るを、松島あてのうへに、  
 自ら、其の如く、と打笑ひ、その為の自害は、おびらるゝ所、  
 個々存命し、や。市使者、善く、あゝ、和田、及、何と、  
 松島、自害は、よろしく、秀房、どの、疑ひ、か。是れ、  
 あての、と、義、登、孫、笑、く。和田、左、津、の、村、義、登、の、  
 人の、理、非、を、正、し。又、老、臣、の、中、に、列、く。國、家、の、  
 御、由、非、を、正、し、と、ま。勿、論、お、の、斗、ひ、を、い、ふ、  
 して、正、理、を、相、守、し、と、い、は、し、ま。詮、義、の、  
 也、の、時、義、秀、局、と、密、通、の、疑、ひ、の、何、れ、  
 乳、母、依、仰、せ、ら、れ、る、也。相、の、自、害、せ、  
 せ、ら、る、と、い、ふ、密、通、せ、ら、る、と、い、ふ、

乳母の如く、乳母は、直に、罪、名、に、決、せ、ら、る、  
 局、が、死、後、は、何、の、疑、い、も、無、く、但、局、自、  
 害、を、し、て、死、す、る、に、由、り、あ、ら、う、と、い、ふ、  
 時、節、を、以、て、乳、母、と、い、ふ、と、先、に、理、  
 義、子、を、持、つ、と、い、ふ、が、義、秀、局、を、  
 下、さ、る、べ、し、某、を、命、ぜ、ら、れ、  
 密、通、の、相、の、世、に、居、る、罪、を、  
 余、人、へ、命、ぜ、ら、れ、下、さ、る、  
 立、つ、る、の、旨、を、上、と、い、ふ、  
 して、義、秀、と、い、ふ、お、ん、  
 相、の、下、知、よ、う、と、い、ふ、



幸一申の御子辰を教ふるるる。後者の所ある。又もは慈ひと愛  
 べ。まがごの禦白なる。如仍り飾る。後者とはそれ。是非同なる  
 なり。とて。遠て傳へしむ。也。止る。後者。中使同通。中野へ。夜。ひ。証。を  
 中上。若。再び。決。臣。と。して。中。野。等。の。執。権。等。時。中。上。の。中。野。等。  
 中。野。等。御。理。の。不。他。されども。不。礼。の。振。舞。り。出。仕。の上。お。人。等。  
 中。野。等。居。る。中。使。者。に。對。して。中。野。等。を。述。者。を。野。等。の。野。等。  
 至。り。その。上。口。子。の。の。礼。の。あ。ら。は。し。く。送。り。つ。や。り。と。も  
 事。の。一。と。も。君。の。の。の。は。方。且。の。我。子。を。突。出。し。殺。さん。と。も  
 罪。せ。れ。も。自。己。の。志。と。して。と。して。野。等。の。罪。を。免。さん。との。野。等  
 あり。と。し。野。等。の。野。等。の。野。等。の。野。等。の。野。等。の。野。等。の。野。等。  
 密。通。せ。る。勿。論。も。ん。と。相。子。死。し。つ。る。と。して。野。等。利。は。野。等。と。

若。刺。と。る。野。等。の。り。て。非。法。多。し。と。特。に。後。に。や。り。不。知。仰  
 々。の。野。等。の。野。等。の。野。等。の。野。等。の。野。等。の。野。等。の。野。等。  
 礼。の。及。べ。その。罪。の。野。等。の。野。等。の。野。等。の。野。等。の。野。等。の。野。等。  
 自。状。と。し。野。等。の。野。等。の。野。等。の。野。等。の。野。等。の。野。等。の。野。等。  
 多。る。上。の。野。等。の。野。等。の。野。等。の。野。等。の。野。等。の。野。等。の。野。等。  
 同。事。と。し。野。等。の。野。等。の。野。等。の。野。等。の。野。等。の。野。等。の。野。等。  
 振。り。依。信。員。の。野。等。の。野。等。の。野。等。の。野。等。の。野。等。の。野。等。の。野。等。  
 我。門。の。野。等。の。野。等。の。野。等。の。野。等。の。野。等。の。野。等。の。野。等。  
 返。り。切。後。中。野。等。の。野。等。の。野。等。の。野。等。の。野。等。の。野。等。の。野。等。  
 小。切。後。と。し。野。等。の。野。等。の。野。等。の。野。等。の。野。等。の。野。等。の。野。等。  
 京。郊。へ。の。野。等。の。野。等。の。野。等。の。野。等。の。野。等。の。野。等。の。野。等。



今に於て穿鑿さるべき通事。明日中不義ある所。今日、朝時が  
有所と尋ねしむべしと。義重は仰有けしむ。何もの事か。中  
義時は尋ねた。朝時切後のと歎悼をせしむ。人ども速て事なき罪を  
赦さんとす。せしむ。今、文仰をなす。終つて面を以て退し  
たるが。朝時、信濃をば上との仰を力よし。しも在所されど。予  
まその中よ。斗ひ方もあらん。のと。文仰。石車一返宅へけ。え。本  
朝時。紙。駿州富士郡へ。半一返。す。義時の下知られば。内との。守。信も  
通下。呼。あ。ん。ま。いと。要。いと。い。とも。愁。と。泣。け。降。し。並。行。請。を。尋。ね。る。  
辨。よ。り。て。ま。密。に。尾。公。へ。け。事。紙。辨。し。ら。ぶ。尾。公。の。外。怒。り。め。い。ども  
其。の。仰。理。の。當。然。と。い。へ。再。び。嫌。死。め。ら。ん。な。ら。ず。あ。か。び。そ。の。日。に。終。り  
四五日を経て。い。ふ。朝。比。来。い。其。の。仰。よ。る。て。は。所。傳。よ。し。並。朝。時。が

ゆはとゆをあら。そ。ま。拉。く。和。田。左。衛。門。尉。藤。原。兼。光。料。の。ゆ。は。は。ら。一。と  
い。ども。弟。秀。光。は。あ。り。止。ら。其。其。父。と。い。依。り。出。初。悔。あり。と。号。し。宿  
所。は。引。籠。ち。る。も。三。浦。一。統。九。十。八。人。と。あ。り。出。仕。を。止。める。是。の。事。也。  
取。存。は。尾。公。の。才。は。事。付。が。差。夫。一。向。非。道。の。も。ふ。儀。若。毎。人。の。所  
到。る。も。へ。大。に。怒。り。悔。り。兼。智。の。賊。臣。經。才。の。奸。臣。亦。の。落。着。し  
い。と。致。さ。る。その。仕。方。を。い。ん。と。く。一。族。殺。死。出。仕。を。止。仕。人。の。計。ひ。よ。あ。り  
ん。と。の。る。も。夫。大。き。に。終。つ。れ。あ。ひ。に。役。を。揚。り。く。尋。ね。み。た。人。也。よ。事。也  
其。情。中。上。々。の。別。の子。細。り。に。ば。愚。息。弟。秀。光。不。審。と。も。あ。り。も。一。落  
着。中。に。一。族。は。列。る。軍。出。仕。を。い。ん。の。忠。あり。且。歎。死。し。り。一。云。の。口。入。る。に  
し。る。バ。化。人。の。変。形。し。任。せ。中。に。い。ん。等。い。の。落。着。の。う。人。の。免。の。仰。せ。紙  
ま。ら。く。出。初。悔。し。ん。と。中。由。へ。果。も。も。非。多。く。号。し。ら。る。如。事。時。又



是亦由羊堂の系を恨て一門を出仕を止断すの計をとりてのこゝろ  
 ども一觸さしむ。是より同年六月七日、山所の侍所よかめく田舎武士  
 館四郎改之。萩生右馬久常一口論を仕出。強劫よあつび  
 たるが。あ方の郎をた立列を救くは残る。おそい夜中のさ  
 しく。まうぶさ武士ありけは。是を制するのあり。既  
 中、大乱よ及び館四郎の萩生が所ホを切殺し萩生はま  
 敵が家人を殺害し。中中あての狼籍也へ天をぞ怒せぬひ。  
 早く結めよと命せざるれども。在合守護人ホ唯周青狼貝  
 静むることあふ。清所よ近に終臣退く。死集れども。その有  
 ちまござる也。制しはざる知。和田左衛門尉登ける。次つけ  
 館居の身まるといども。諸士の別當るれば。皆捨る。子息

郎終と居る。逸系よ地志大音揚。山所中あての平論を承  
 ともあれ。是れ恐むる。案云。結道断の事。諸士列。為。登  
 け。在。狼。又。強。乱。の。事。の。悉。く。罪。を。ま。り。と。呼。び。け。は。解。系。の  
 武士多へ。登。登。と。呼。び。て。怒。ろ。う。付。結。と。拒。れ。ん。も。館。萩。生。の  
 中。切。結。で。あり。し。也。へ。登。登。大。怒。り。子。息。郎。ホ。下。を。と。り。て  
 へ。彩。太。右。尉。尉。登。登。牙。彩。兵。衛。尉。朝。登。ホ。我。ふ。族。と。一。人。も  
 残。ら。ば。生。捕。ま。り。け。る。也。中。中。早。速。よ。静。燈。と。呼。び。て。登。登  
 擒。の。車。が。姓。名。紙。記。し。即。死。め。ん。負。三。人。是。ホ。も。相。改。書。置。し  
 取。次。と。以。ち。上。系。館。居。の。身。よ。い。ども。清。所。の。強。劫。を。承。り。て  
 之。の。び。び。と。即。時。は。相。泣。い。ま。り。交。刃。の。事。へ。早。く。中。手。ひ。け。た。事。と  
 生。捕。ホ。の。守。護。人。よ。引。渡。し。子。息。亦。ホ。を。引。渡。し。宿。所。尋



ゆりて居り居り居り居り。君もへは強動。殺刻におくくとも静ら  
 ざればは憤有り。此を盛早速歩み。即時は狼籍の輩を擧  
 捕静澄るさしむる。糸誠忠を存るありと。大は感さしく  
 此堂矣あぶさ知は。終居の身あれは逆。盡て帰宿するあり  
 そのものへええええ。争論の輩を此れぬあるに宿直の座席。争  
 論より事起る。向状は及ぶ。狎のまより。此所中を強せ  
 又傷より。糸曲事ありとの。は怒強く。む此所中より。の刃傷  
 されば口論の是非を此れさるに及ぶと。館養生主人とも。所領を  
 没せし。流罪よ。せし。事。海。り

泉小次郎親平隠謀義時と誅伐せんと欲す

叔母尼公も。義時が款祈る。此中自らも。愛顧厚く。甥。胡。時。の  
 るれば。い。り。て。切。腹。を。止。め。な。さ。る。百。け。こ。も。は。吟。味。の。事。も  
 餘り烈しく。仰進せられ。よ。され。ば。今。又。此。所。由。る。難。く。困。り。と  
 在。る。如。今。及。此。所。侍。て。館。養生。不。時。の。争。論。を。引。出。し。強。動  
 せ。此。を。盛。早速。静。し。る。君。も。へ。は。強。動。の。義。と。は。自。清。臣。と。集。り  
 義。登。牌。の。義。を。自。困。居。せ。む。と。い。ふ。も。は。及。早。由。ま。り。強。動。を  
 静。ま。す。その。功。も。な。か。り。け。は。功。あり。て。義。秀。を。罪。と。免。さ。る。如。右  
 元。未。究。め。た。罪。科。ある。如。切。腹。を。せん。不。便。と。思。ふ。も。時。は。及。で  
 止。と。は。は。は。れ。ば。あり。義。秀。免。許。せ。む。上。の。朝。時。由。同。義  
 た。と。い。は。義。各。の。異。見。遠。慮。あり。と。仰。け。は。義。時。大。に  
 悦。び。身。一。よ。と。も。出。此。仁。恵。の。中。事。ひ。あ。や。と。中。に。は。と。て。餘。の。面。々  
 一同。は。此。の。中。事。ひ。と。申。上。る。君。又。は。後。此。母。公。へ。も。仰。し。つ。ら。き



くまへ... 羽村が免さるるめ...  
宜き... 廣元... 秀と... 一族... 中へ... 騷動と...



の身あり... 平定... 秀... あり... 廣元... 秀... 三輔... 一黨...



胡比奈 三郎 新秀 御所 伴







次男次郎 徳清 又子三人 星名次郎 友平 栗沢次郎 長經  
 青栗四郎 時光 同七郎 為廣 是亦皆同國の輩也 親平は  
 一雫 北条家を傾んと 系舎 祥儀なる有りしが 親平は  
 軍に向く 我々密謀を企ると 乱と好み 何とぞと 且も君の  
 おん世のみよ 城を討て ちん 全せん 敬を 今北條を 時推を  
 專にて 吾沢奪ん とは 誰れ 是を 悪ざらんや 大丈夫の勇士  
 かるふと 汝余はよん ちん 各一命を 志す 又 施さる 後と  
 小て 斗畧 汝等 一も 大予 成就 是よ 是よ 是よ 大切 而 是 衆令  
 運拙く 時至 ば 一て 存厚 を 運 ぐ 汝 傷 又 骸 と 晒 と 申 志  
 今と 再ん 上 大夫の 志 あり ば 中 ち け 是 へ 翁 山 次郎 進  
 して 小条の 繁昌 へ 故幕下 の 中 録 者 なる 友 といひ 尚武 にお 止

若年 中 也 義時 伯又 尼と 又 義時 と 兄弟 弟 なる 汝 以て 具 負 子  
 多 くの 人 間の 習 あり 斯 由 又 彼 一 門 権 威 強 一 といふ とも 是 也  
 背 け なる 行 の 一 六 あり せ 早 竟 尼 公 の 兄 され ば 義 時 の 威 強 と 云  
 め の こと といひ 義 時 篡 奪 の 人 あり とも 尼 公 争 市 子 と 捨 て 義 時 又  
 子 せ ざる べ 也 惣 小 条 を 亡 不 せん と して 却 て 謀 友 人 あり とも 呼 ん  
 とも 口 惜 ず 次 弟 あり せ 彼 家 の 繁 昌 と 妬 猜 の 名 と 稱 せ られ  
 面 の 家 名 と 虚 しく 失 ん ば 亦 義 由 隱 是 益 蓋 あり とも 先 哲 云  
 時 節 を 見 合 義 時 逆 心 の 企 あり ば 其 の 時 同 志 の 面 々 其 の  
 おん 一 命 を 献 じ 彼 城 を 誅 する とも 運 する 事 あり とも 云 け ば  
 親 平 歎 笑 て 翁 山 どの 一 言 慮 あり せ 運 する 事 あり とも 尚 武 の 義 理  
 欠 たり 柳 小 条 が 権 威 強 一 今 更 の 義 子 球 と といふ 幕 下





館四郎  
政久  
萩生右馬  
常一  
圓諱  
の号

屋月夜三編巻之五



在在の物への時改の男もぐら威と威と結つて。私家郷乃  
 時代に至り。後見するの由。自然と威勢を逞や。一門盤索の  
 時とほるにふり。終は逆心と企を害せんとせしむ。諸臣も  
 以て知る如き。然ども尼公の巾着ひして。時改一命恙なく。小糸は  
 隠居せしめ。其時へ執権を命ぜらる。其時中しく。太政大臣と  
 屈一辞退さる。一夜の扶掖も及ぶ。悦びけ。穢と嗣はあ  
 る。たふるに。況や時改の代。権威十倍と。我  
 変り。依性多く。改道憲法既。乱る。麻と指て馬といや  
 む。趙高が権勢も奇に足む。今とを殊せ。逆意の足影と  
 待時へ。彼根と強く。一帯と固め。天と孫もふ。吾僚り。よ  
 とも。容易敵對する。漢朝を覆せ。王莽が如く。其時天乃

中座と離る。上るけ。何時不。事の奉。あ。ん。由。中。か。今。その  
 根帯の堅から。内誅せん。あ。ん。か。居。ま。よ。成。て。中。る  
 ぞ。會集の族は。最。り。と。同。評。定。変。け。也。親。平。よ  
 け。企。各。私。の。よ。に。あ。ん。必。承。の。患。を。除。為。る。れ。に。一。種。は  
 誓。て。を。結。べ。言。日。以。掲。び。高。戸。隱。痛。一。彼。種。を。拵。て。誓。約  
 盟。約。る。と。中。合。ら。る。建。曆。二。年。八。月。五。日。彼。種。社。は。系。合。し。契  
 書。を。締。り。ぬ。ん。ま。は。下。れ。と。種。は。多。ひ。血。列。を。る。以。宗。徒。の。輩。二  
 四。人。り。上。田。原。平。三。兼。進。と。出。我。く。逆。臣。と。殊。成。せ。ん。と。か。拵。約。と  
 る。せ。ども。皆。高。國。の。者。也。武。府。へ。謙。會。の。所。所。下。り。其。時。是。と。も。獲  
 ら。ん。ば。其。時。還。て。我。と。逆。心。謀。及。人。と。号。し。天。を。後。指。と。ほ。諸。臣。は。余。ト。討  
 ち。と。下。さ。る。其。時。汚。名。を。受。て。亡。さ。る。其。男。茶。と。い。ふ。つ。つ。も



して我々が楯とよとて大將軍を守きて計りのまゝ名心しく味方  
 自然と加ふべし何卒いふと評言一の之と申けるまゝ各宜しと  
 申付持論ざる如く親平のついで足下の思慮尤もなり我も兼く  
 此事を以て内々存付一人こそあるは幕下君の血脈彼こそ  
 あつといふも人の知る方へ疑ありこそよしく幕下頼朝の  
 旧嫡孫存付ゆ。先君金吾我々家の若君善哉丸尚時出家  
 を遂と自公曉と号は仁と先君の嫡男れば此亦督相續  
 あらんと順道あり況や先君罪ありして小条が為に瘞せられひ  
 へのあつて人の志まざる如あり。去り依ていふを傳立大將とせば忠  
 むく候も有り。其時君を我々防戦の時君も依ていふを謀り  
 兼て善哉丸と武將と仰べ。誰う不平の云あらん哉。是も

する人ありと云ふに幸ひ京師はちとほまじき事なれば  
 せんよえまは仁幼あり。度量化は我々生ゆる也。悦で居る  
 各の所存のついで申けしは諸士一同は我もおひ付し  
 うね。減は並る死大將軍之早く初めと申す。時よ君を重房が  
 云く。我々のまての大君及難かふけしは在鎌倉の武士等と  
 語ひ彼地の指子を知りてんべ叶す。外國の輩百人より鎌倉  
 の武士十人と味方とて大利益とんと親平完承笑ひしる  
 申され。某疾との事を計居る。今日へ神前も実を現る。  
 契約の日もれば我々中疎む語り申す。善哉丸と申す。其時  
 候もついでと云ふ。此亦おの君も諸士往歸伏しれば撰  
 事必謀がす。依て大形のてく立並在鎌倉の諸士と



味方に拓きを腹の輩をひて。密に子小糸珠代の手と上我  
 打向の初何卒子孫け方へ渡せぬ人招ふに。北条家のこゝ  
 ころ討へ諸士皆味方とあり。殊戮掌の中にあり。然して君を  
 再び鎌倉へ居をり。弟世と唱へ功名二あがり全くと云べ。終令け方  
 へ渡せぬ人とあるは。一旦所をて向討へ面く公際白あくと。弟時  
 子孫捕よるた。おりの招は下知あるは。されども夫程中を汁裸んと  
 至て難し。尚時鎌倉の武士大半小糸は編入軍也。有虚は衛ん  
 とせぬ。忽露す。又滅たを守族とあり。唯一夜の事あてハ説と云べ  
 か。但却て疑を合し。突とるべ。叔諸士を語ひ。ひとも君へ内と  
 プ上ん。甚容易か。但。終。之の實と。つめべき。正直の人ありてハ所  
 が。うく。難。之の。筋。多し。と。い。ども。是。を。疑。む。時。ハ。各。を。一。皮。せ。る。

か。ゆ。先。之。ひ。ま。る。修。契。約。を。ほ。並。公。静。は。斗。畧。派。廻。り。鎌。倉。の  
 諸士を語へ。発端中出る某るれば。弟事我に。何事か。い。は。す。く  
 事。終。計。る。去。る。が。ら。面。く。存。付。且。知。あ。る。ハ。早。速。告。ぐ。そ。の  
 乃。は。ゆ。て。行。み。べ。と。す。に。ぞ。皆。く。尤。と。思。ひ。し。る。青。栗。七。郎。為。廣  
 親。平。は。向。ひ。出。邊。の。詞。理。は。尚。て。覚。ひ。お。在。鎌。倉。の。諸。士。を。語。ん。ふ。ハ  
 乃。も。中。の。也。し。じ。て。中。半。の。も。や。と。思。ひ。け。し。バ。親。平。は。合。て。別。母  
 工夫を。何卒一人。衣。厚。く。兵。吉。勝。し。一。人。あ。る。鎌。倉。は。幸。人。と。云。ふ。と  
 探り。喜。に。意。し。語。り。め。んと。存。し。ども。未。その。言。は。尚。る。人。を。死。を。喜。ぶ。と。  
 為。廣。守。也。あ。る。と。左。を。存。し。し。勇。也。愛。も。き。入。然。る。べ。き。者。あり。某。が。口  
 より。中。の。い。つ。ぐ。る。れ。ども。一。味。合。群。の。評。議。よ。ら。み。れ。を。中。ぬ。は。義。は。あ。ら。は。せ  
 此者。派。用。ひ。む。づ。先。その。言。を。疑。し。ん。ぬ。と。す。親。平。對。て。一。味。の。中



より勃然と人々を驚愕せしむ。以後の苦悩を厭む。一命を擲人  
 る。その勃然たる左振の人物とて疾振れんと為廣が云く人々  
 則某が身あり。勿少より出家。叡山より勃然と阿静訪安念  
 と申。毎舌勝を力量三人と對せり。柳ありて去年より左々あり  
 今某が方又逼當と同根同性の兄弟也。某又なる事は謙倉  
 中より徘徊。諸臣は知己多し。候はお慮るべしと祝平大は悦び。  
 候と死て招む。是は暫て安念法師出外。各は對面と祝平  
 が云今日尚社合の正舎兄弟も皆の各武道を守り。國家  
 の為は賊を除んと欲する者あり。されども力の及ざる所あり。是は傍り  
 天下の為に一命を棄る者あり。一大事を執るらんやと申。是は  
 安念はく見一事申す。彼は終ともは以度くの會合且各の親を

五音に依り。大畧その意を不解り。未今汝門にこれども武士の情  
 る。何ぞ一命を惜むべし。義とてせざる勇は。いつる事申すも  
 今一の之彩骨碎身ハ厭外。非とと潔く養ふ。其何ゆらざる如  
 面は現と兵舌水の流るる。さるる。祝平。別斗畧の執事細  
 申す。諸士と諸人の義と教をい。且ば安念。飲び愚信。お急の役  
 目より幸ひ謙倉の務め。其志あり。これハ諸士の心底と探り。味方  
 又招ゆらん。公易のひめと快く肯け。且ば祝平大は悦び。安念。其も  
 契約の書。名列を居させ。片時も早くお立ち。いと勃然とあり。  
 即刻申す。謙倉と執事あり。

星月夜頭晦録三篇卷之五尾



高井蘭山校



蹄齋北馬画



字繪二十六葉 形工 朝倉伊八刀

星月夜初編二編三編十五卷  
出來四編五編合二十五冊  
道當年不殘之書也

和漢 西洋 書籍賣捌處

大阪心齋橋博愛町角

群玉堂河内屋 岡田茂兵衛



